

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0151
施設名	子供の家愛育保育園
施設所在地	東京都荒川区西尾久7-26-4
法人名	社会福祉法人 興善会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な自然と様々な事象への興味関心を持つ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
自然と触れ合う機会を設けることに重点をおいて保育を展開してきた。芝生園庭の環境も豊かになり、様々な自然や事象にも興味を持ち、自ら進んで関わることや主体的に活動を行う姿が見られるようになり、より深く自然と関われるようテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

【4月】野菜の苗植えの話し合い、シロツメクサ遊び、【5月】苗植え、【6月】カブト虫の飼育観察、【7～10月】野菜の収穫、【11月】みかんの収穫、【1月】チューリップの球根植え

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・図鑑、絵本、土、苗、肥料、球根、カブト虫の飼育ケース、スコップ、じょうろ、クレヨン、画用紙、電子黒板等

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・野菜の栽培活動を通じて、毎日食べている野菜がどのようになっているのか、どう成長していくのかに興味を持ち関わっていく。
- ・また、季節により作物も異なることやミカン狩りを通して果物は木になることを体験を通じて知ることが出来た。
- ・カブト虫の飼育も園だけではなく、家庭でも行っていただき、命の尊さを知る機会も設けた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・夏に実る野菜は何か？自分たちで調べたり、お互いに知らせたりして考える場を設けることで、どのように育つか等具体的なイメージを掴みやすくなった様だった。
- ・ミカン狩りやシロツメクサ遊びでも季節ごとに異なる花や実がなることを知れ、四季の移ろいや自然への興味が深まっていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・5歳児は、昨年も苗植えをしていたので、土に触れる楽しさや優しく苗を扱う事にも慣れていった。5歳児の様子を見て、4歳児の積極的に行う姿が見られていた。
- ・カブト虫やミカン狩り、チューリップの球根植えなど四季を通じた活動から自然への興味や関心が深まり、電子黒板を用いて振り返りや調べものをするすることで、風や虫、雲や様々な事象への関心が深まっていった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0151
施設名	子供の家愛育保育園
施設所在地	東京都荒川区西尾久7-26-4
法人名	社会福祉法人 興善会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な事象から科学への興味を持つ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

・芝生での自然活動を行う事で、自然への興味が深まり、風や音、雲などの事象へも関心を持ち始めた。目に見えない空気や音などの事象をどのように捉えるか? 「科学」という視点で子どもたちと考えてみようという思いからテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

年間6回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・ビニール袋、うちわ、鏡、筆記用具、凧、ポリ袋、紙コップ等
・どのように空気を集められるか?それぞれが意見を出しながら実験をして体験的に学んでいける場を設定した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

目に見えない空気を大きなポリ袋に集め閉じ込め、スライダーを作ったり、紙で作った凧を上げてみたりする。

糸電話を作り、音がどのように聞こえるのかを工夫しながら知る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

空気や音などいつも身近にあるが目に見えないものの存在を科学的に確かめることで、改めてその存在を知ることが出来、とても驚くとともにものすごく興味を沸かせていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

身近な自然の事象について科学的に伝えるにはどのようにすればよいのかを保育士も知ることが出来、とても学びや気づきが多い。

凧あげも風の力と自分たいの走る速さ、また、髪を重ねて折ることで強度が増して支えがなくても、凧が作れることなどを知ることが出来た。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0151
施設名	子供の家愛育保育園
施設所在地	東京都荒川区西尾久7-26-4
法人名	社会福祉法人 興善会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音楽に合わせて、様々な身体表現を楽しむ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
年齢ごと、発達に応じた表現の中から音楽に合わせて体を動かしたり、表現する楽しさを感じる。
発表の場を設けることで、表現する楽しさ、見てくれる嬉しさなどを感じていけるようにしていく。

2. 活動スケジュール

年1回 (総練習2回、本番1回 11月～当日まで)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
衣装、スパンコール、ブレード、背景の絵、舞台、CD
園内ホールを使用し、本番の舞台と同じような流れで練習を重ねる。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

音楽に合わせて踊りを表現し、互いの踊りを見たり、一緒に踊ったりと身体表現をする楽しさを皆で共有する。

皆の前で発表することで、緊張をしながらも見てもらう達成感を味わったり、皆で行い、協調性の態度を養う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

踊りの振り付けを覚えるため、歌詞を口ずさみながら踊ったり、友達の踊りを一緒に踊りながら覚えたりと、クラスの中で互いに声掛けをしながら練習する姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちを発表会を行いどのように感じたかを振り返ると楽しかったという意見と共に、表現活動を通して達成感と満足感、自信がついたという声も多くあった。

一つのことを練習して出来たことで、頑張ればできるという自信と皆で協力する楽しさを感じる幼児は多かった。また、乳児はそれぞれの発達や個性に応じた表現を楽しんでいた。